

INSTRUCTIONS FOR USE
MODE D'EMPLOI

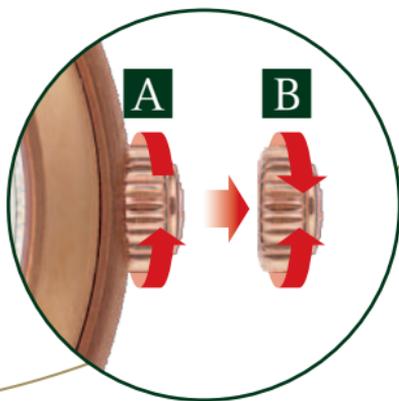
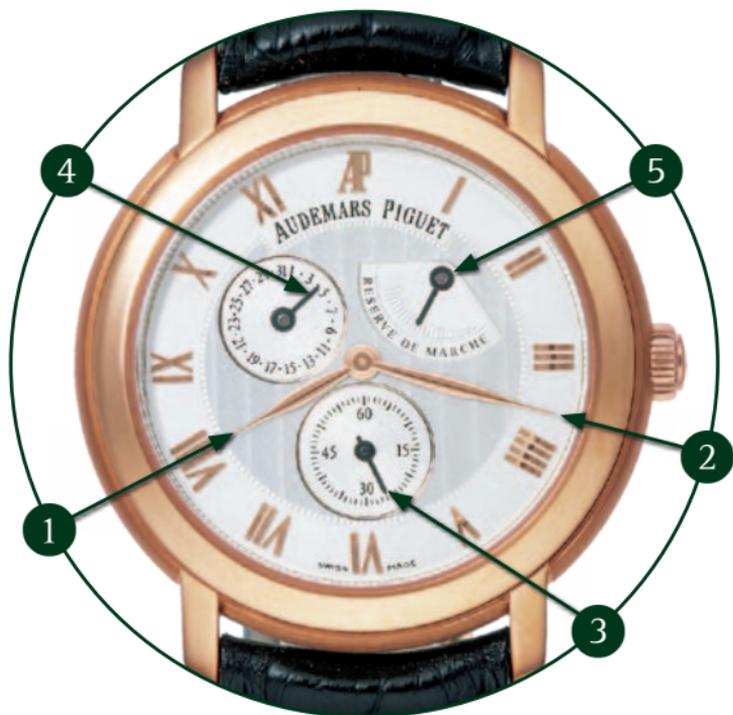
HAND-WOUND MOVEMENT

CALIBRES 3090, 3091 AND 3091 OPENWORKED

CALENDAR WITH POWER-RESERVE

CALIBRE 3092/3900 – HAND-WOUND

AUDEMARS PIGUET
Le Brassus



日本語

使用説明書の目次はインタラクティブになっています。
読みたい項目のタイトルもしくはサブタイトルをクリック
してください。

目次に戻りたい場合は縦に配された白いインデックス
「日本語」をクリックしてください。

保証とお手入れ

時計の保証、および推奨するお手入れ方法に関する
全ての詳細な情報は、証明書および付属の保証
書に記されています。



イントロダクション 151 ページ

- オーデマ ピゲのマニュファクチュール

時計について 155 ページ

- 永久カレンダーとパワーリザーブ

この時計について 156 ページ

- ムーブメント
- ムーブメントの仕様
- 特徴

機能の使い方 164 ページ

- 時計の表示と機能
- 時刻合わせ
- 時差
- ムーブメントの巻き上げ
- パワーリザーブ表示の読み方
- 日付の調整



オーデマ ピゲ マニファクチュール

時計製造技術の発祥の地、ジュウ渓谷

ジュネーブの約 50 km 北、スイス・ジュラ山脈の中に、今日までその自然の魅力を保っている地域、ジュウ渓谷があります。この山岳地帯は気候が厳しく、土壌も痩せていたため、この地に根を下ろした人々は 18 世紀の中頃に、農業以外の収入の道を探すことを考えました。コンピェと呼ばれたこの土地の人々は、手先の器用さと新しいものを創造する力、また不屈の精神を活かして、時計製造業へと発展していくことになりました。

こうして作られたムーブメントは質が高く、ジュネーブの企業に大変な好評をもって迎えられ、完全な時計に仕上げられたのでした。

1740 年以降、ジュウ渓谷のみで時計製造業は自立した産業として発展することができるようになりました。このとき以来、この地域は、ある年代記の 1881 年の項に記されているように、「急速に発展を遂げた桃源郷」へと変貌したのです。





偉大なる冒険に挑んだ2つの名前

1875年、複雑時計の製作に情熱を傾ける2人の若き天才時計職人、ジュール・ルイ・オーデマとエドワール・オーギュスト・ピゲが、高級時計産業が盛んな地、ジュウ渓谷で2つの才能を集結させ、複雑機構を搭載した時計を開発・製作しようと決意しました。2人の決意、想像力、そして規律の正しさは、ただちに成功を収めました。1885年ごろ2人はジュネーヴに支店を構え、1889年のパリ万国博覧会の際には様々な超複雑懐中時計を発表して、新たな取り引き関係を広げます。オーデマ・ピゲのマニファクチュールは年々と発展を続け、例えば1892年には初めてのミニッツリピーター機能付きの腕時計、1915年にはそれまで実現されたことのない5分単位ミニッツリピーター機能を備えた最小ムーブメントを製作するなどして、高級時計産業の歴史を彩ってきました。

1918年からは、創設者の息子たちが事業を受け継いでいます。男性用、女性用の腕時計の製作に卓越した技術を発揮し、極薄の洗練された新しいムーブメントを作り出しています。1929年のウォ

ール・ストリート株価大暴落によって厳しい経営を強いられるものの、粘り強さと信念を持ち続けることで、まずスケルトンと呼ばれる時計の製作を再び軌道に乗せ、その後クロノグラフ付き時計の製造に乗り出しました。しかし、この新しい勢いも、第二次世界大戦によって突然中断を余儀なくされてしまいます。戦後は再編成をし、マニファクチュールは、「伝統と革新」を追及しつつ、ハイエンドウォッチの製作に注力。そして特に、クリエイティブの斬新さという方針により、戦略は実を結んだのです。



国際的な成功を収めたオーデマ・ピゲは、1972年にステンレススチールを用いた世界初のラグジュアリースポーツウォッチとして発表され、発売と同時に大きな成功を収めたロイヤルオークの製作をはじめ、1986年に発表された世界初の自動巻きの極薄ツールビヨン腕時計などの製作を続けてきました。以来、マニファクチュールの創造のひらめきは衰えることなく、比類ないムーブメントを備えた独自の美しさを持つ時計を世に送り続けています。こうして80年代末には複雑時計のテイストをコンテンポラリーなものに一新し、1999年には見事なコレクション「トラディションオブエクセレンス」を発表します。オーデマ・ピゲはこのシリーズの一環として、オーバルケースデザインのミレネリーのトラディションオブエクセレンスNo.5を発表しました。この時計には、パワーリザーブインジケーター機能、デットビートセコンド機能、垂直に配された永久カレンダーが備わっており、さらには潤滑油を必要とせず革命的な高い効率で機能する新脱進機システムを搭載することにより、伝統に根付いた大胆なスピリットを実現しながら、未来をも約束しています。



この時計について

手動巻き上げ式キャリバー3090は、新世代に属する初のキャリバーです。19世紀風に作られたこのキャリバーはサイズが小さいにもかかわらず、信頼性において他のキャリバーとは一線を画します。

モジュールを一つ追加することにより、キャリバー3092/3900となり、時間、分、秒以外にも日付とパワーリザーブを表示します。

20世紀は、小型の機械式キャリバーを搭載した超薄型時計がこぞって開発された世紀でした。オーデマ・ピゲの21世紀は、信頼性と正確さを優先しつつ幕開けます。

キャリバー3090は、この世代のキャリバーに属する初のキャリバーで、ル・ブラッシュのアトリエ秘伝の技から生まれました。新しいキャリバーは信頼の置けるものであると同時に、類まれな正確さで機能します。その美しさはマニユファクチュールの新しいシンボルとなっており、その構想はミニチュア化を離れ、正確な性能において威力を発揮しています。

基本ムーブメント

キャリバー 3090

ブリッジ側



ダイヤル側



ムーブメントの技術仕様

ムーブメントの厚さ: 2.80 mm

ムーブメントの直径: 21.40 mm

振動数: 21,600 振動/時 (3 Hz)

石数: 21

パワーリザーブ (ミニマム): 約48時間

手巻き式

変動慣性マスロット使用テンプ

平面スパイラル

ネジ付可動ピトン留め

部品数: 148

特徴

6時位置に小秒針

全てのブリッジと地板の仕上げ (パール仕上げ、サークル仕上げ、アングルはダイヤモンドツール磨き)

横方向に置かれたテンプ受け

基本ムーブメント

キャリバー 3091

ブリッジ側



ダイヤル側



ムーブメントの技術仕様

ムーブメントの厚さ: 2.80 mm

ムーブメントの直径: 21.40 mm

振動数: 21,600 振動/時 (3 Hz)

石数: 21

パワーリザーブ (ミニマム): 約48時間

手巻き式

変動慣性マスロット使用テンプ

平面スパイラル

ネジ付可動ピトン留め

部品数: 148

特徴

全てのブリッジと地板の仕上げ (パール仕上げ、サークル仕上げ、アングルはダイヤモンドツール磨き)

横方向に置かれたテンプ受け

基本ムーブメント

キャリバー 3091スケルトン

ブリッジ側



ダイヤル側



ムーブメントの技術仕様

ムーブメントの厚さ: 2.80 mm

ムーブメントの直径: 21.40 mm

振動数: 21,600 振動/時 (3 Hz)

石数: 21

パワーリザーブ (ミニマム): 約48時間

手巻き式

変動慣性マスロット使用テンプ

平面スパイラル

ネジ付可動ピトン留め

部品数: 148

特徴

スケルトンムーブメント

全てのブリッジと地板は手仕上げ (アングル磨きと彫刻)

横方向に置かれたテンプ受け

基本ムーブメント

キャリバー 3092/3900

ブリッジ側



ダイヤル側



ムーブメントの技術仕様

ムーブメントの厚さ: 4.10 mm

ムーブメントの直径: 21.40 mm

振動数: 21,600 振動/時 (3 Hz)

石数: 24

パワーリザーブ (ミニマム): 約48時間

手巻き式

変動慣性マスロット使用テンプ

平面スパイラル

ネジ付可動ピトン留め

部品数: 181

特徴

6時位置に小秒針とシンプルカレンダー、パワーリザーブ表示

全てのブリッジと地板の仕上げ (パール仕上げ、サークル仕上げ、アングルはダイヤモンドツール磨き)

横方向に置かれたテンプ受け

腕時計の表示機能

(図を参照)

3090: 24時間、分、6時の位置に小秒針

3091、3091 スケルトン: 時間と分

3092/3900: 時間、分、6時の位置に秒針、日付、
パワーリザーブ表示

- ① 時針
- ② 分針
- ③ 小秒針(キャリバー3091、3091スケルトン以外)
- ④ 永久カレンダー表示針
(キャリバー3092/3900のみ)
- ⑤ パワーリザーブ表示針
(キャリバー3092/3900のみ)

この時計は2つのポジションを有するリューズを備えています。

- A** 位置 手巻き
- B** 時刻合わせと日付修正位置のリュウズ (キャリバー3092/3900は日付修正のみ)



時刻合わせ

リューズをポジション **B** に引き出します。時刻合わせをする時はリューズを前後に回すことができます。時間調整時には設定希望時刻より5分進めてから希望時刻に戻すことをお勧めします。歯車かみあいが正確になり精度がより高くなります。

注意: 午後0時（正午）と、日付変更が行われる午前0時（真夜中）とを間違わないよう、お気を付けてください（キャリバー3092/3900のみ）。

時差

時差は1時から18時の間に修正すると、メカニズムを損傷することなく修正することができます。

22時から0時の間に時刻を戻す調整をすると、日付は変わらないので一日進んだままになります。この日付の差はすぐにもとに戻るので修正する必要はありません。次の日からは正しく表示されます。

ムーブメントの巻き上げ

この時計は手巻き式ムーブメントを備えています。

毎日同じ時刻に時計を完全に巻き上げることをお勧めします（リューズは位置 **A** で）。最後まで巻き上がったならそれ以上無理に巻かないよう、ご注意ください。

パワーリザーブ表示の読み方 (キャリバー3092/3900のみ)

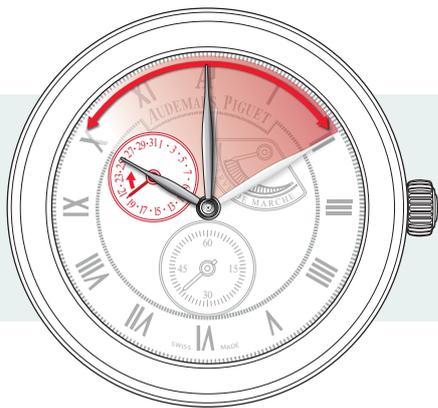
パワーリザーブの表示針を見れば、最も正確な時に巻き上げることができます。

ムーブメントのトルクは、パワーリザーブの針が **図1**にある緑のゾーンにあるとき、最も適切に解放されます。パワーリザーブの針が **図2**にある赤のゾーンにある場合、バレルのばねはムーブメントの機能を保証するのに十分な力を出すことができず、時計はすぐに止まってしまいます。



日付の調整 (キャリバー3092/3900のみ)

注意：デイト修正セクターは22時と24時10分の間にあります(図参照)。



デイトを修正する時は、リューズをまず **B** のポジションに引き出します。

リューズをさらに回し(時計回り)、針を24時10分まで進めます。するとデイトが1日進みます。

リューズを回し(反時計回り)、針を22時に戻してから、必要な回数だけ操作をくり返します。

時計の時刻を合わせ直してください。針が再度零時を越さないようにして下さい。日付がまた変わってしまいます。

注意：永久カレンダーは「簡易永久カレンダー」です。3月1日、5月1日、7月1日、10月1日、12月1日に修正する必要があります。

最も簡単な日付の合わせ方は、あわせたい日付が表示されるまで24時間単位で針を進ませることです(リューズは位置 **B** で)。



